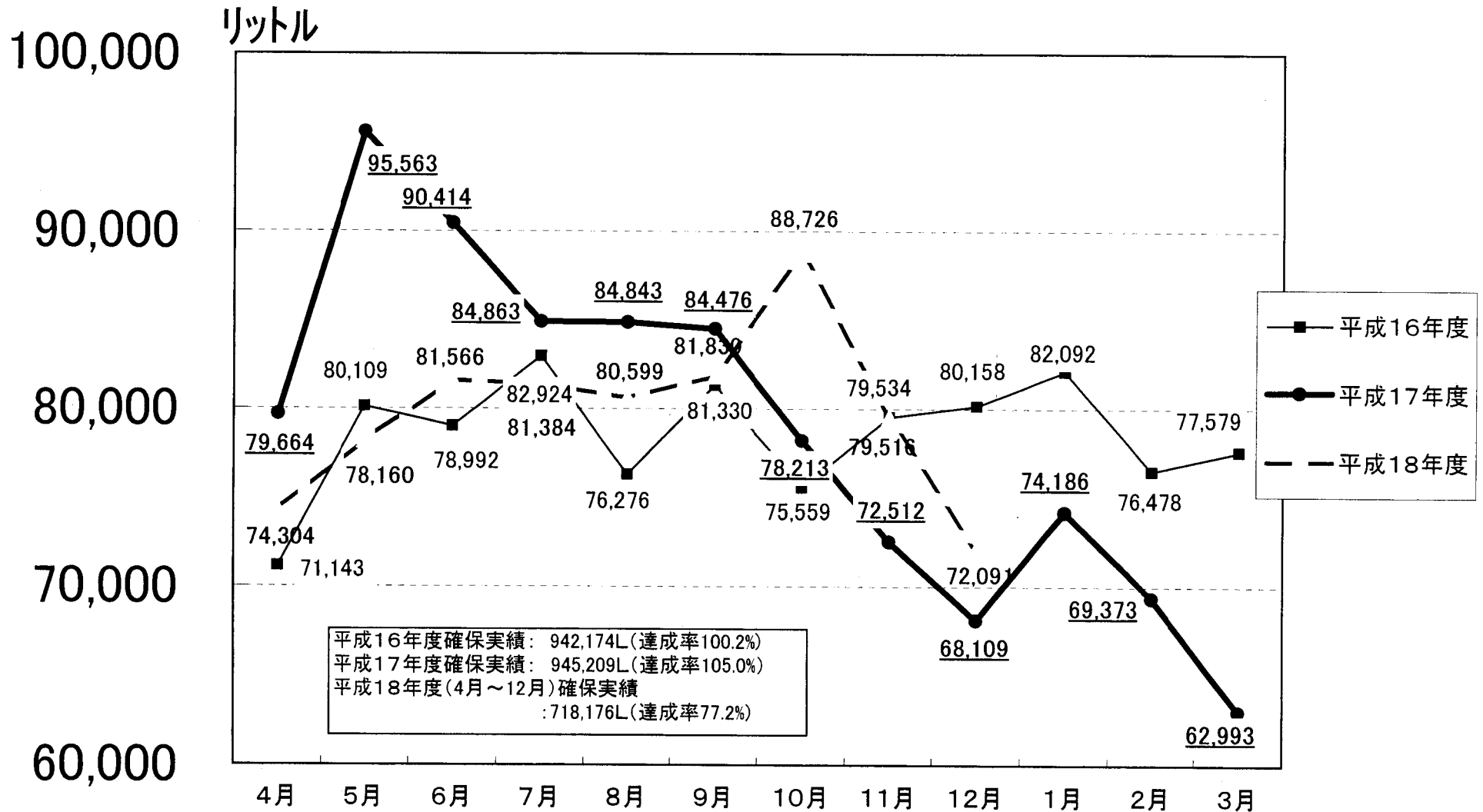
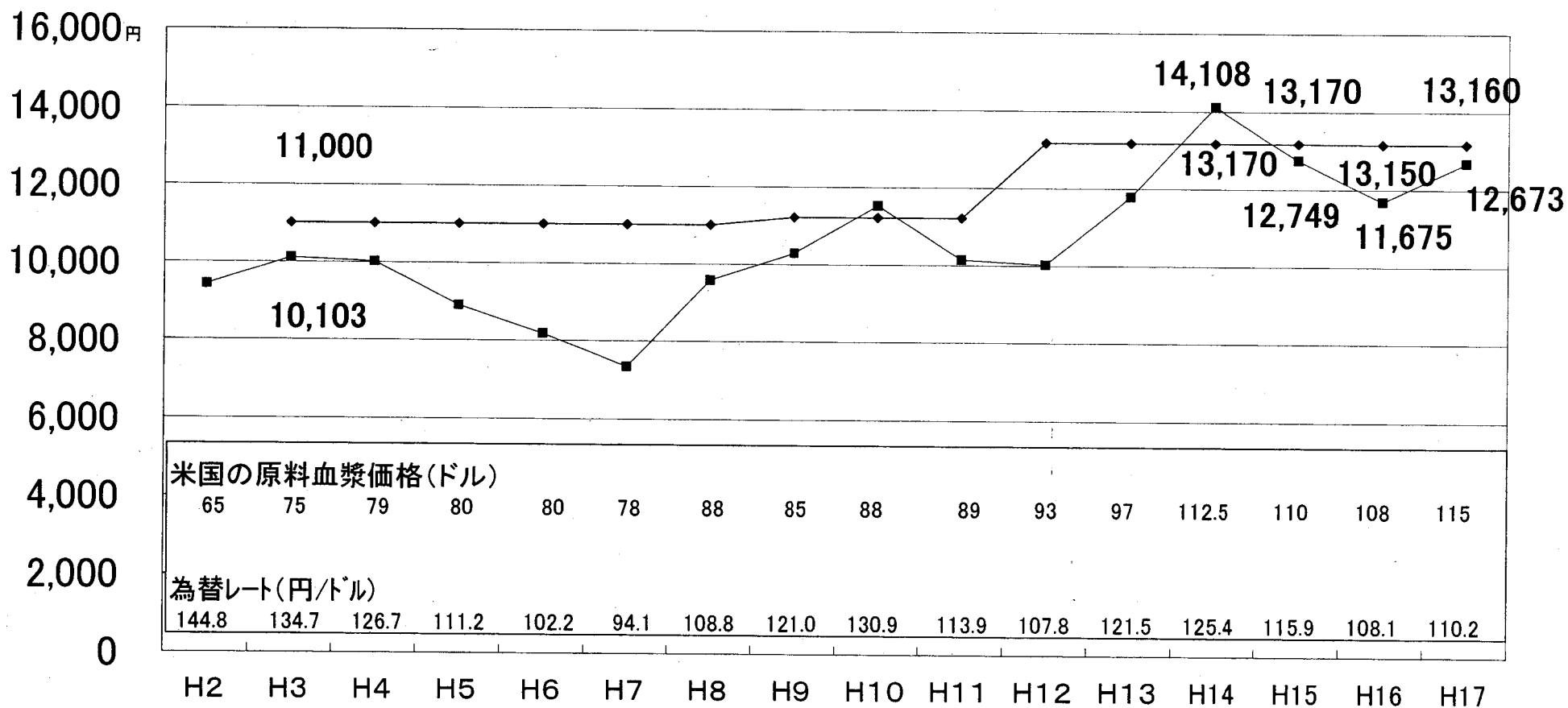


# 原料血漿確保実績(平成16年4月～平成18年12月)



## 原料血漿価格(日米)の推移

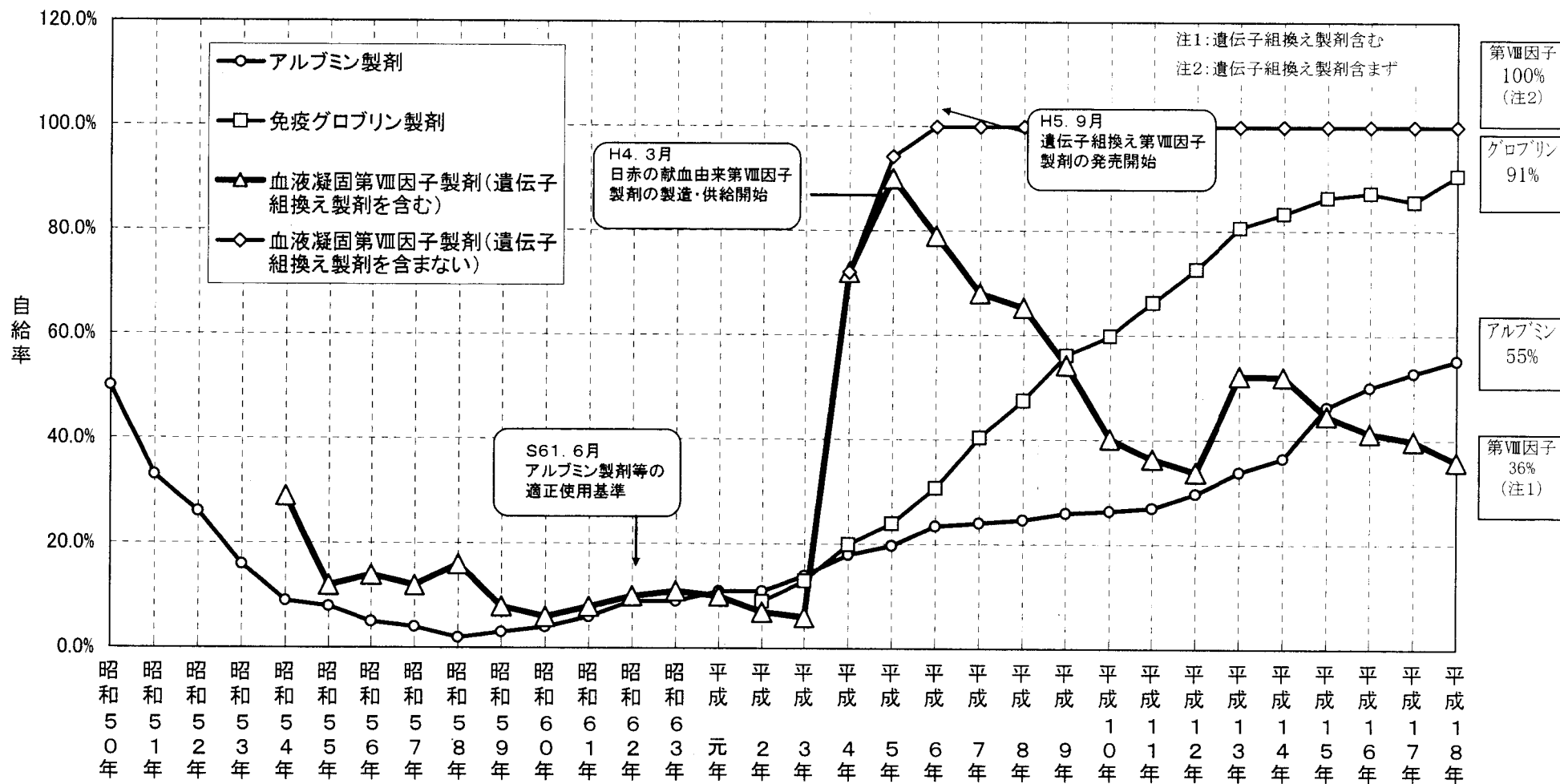


◆ 原料血漿(日本) ■ 原料血漿(アメリカ)

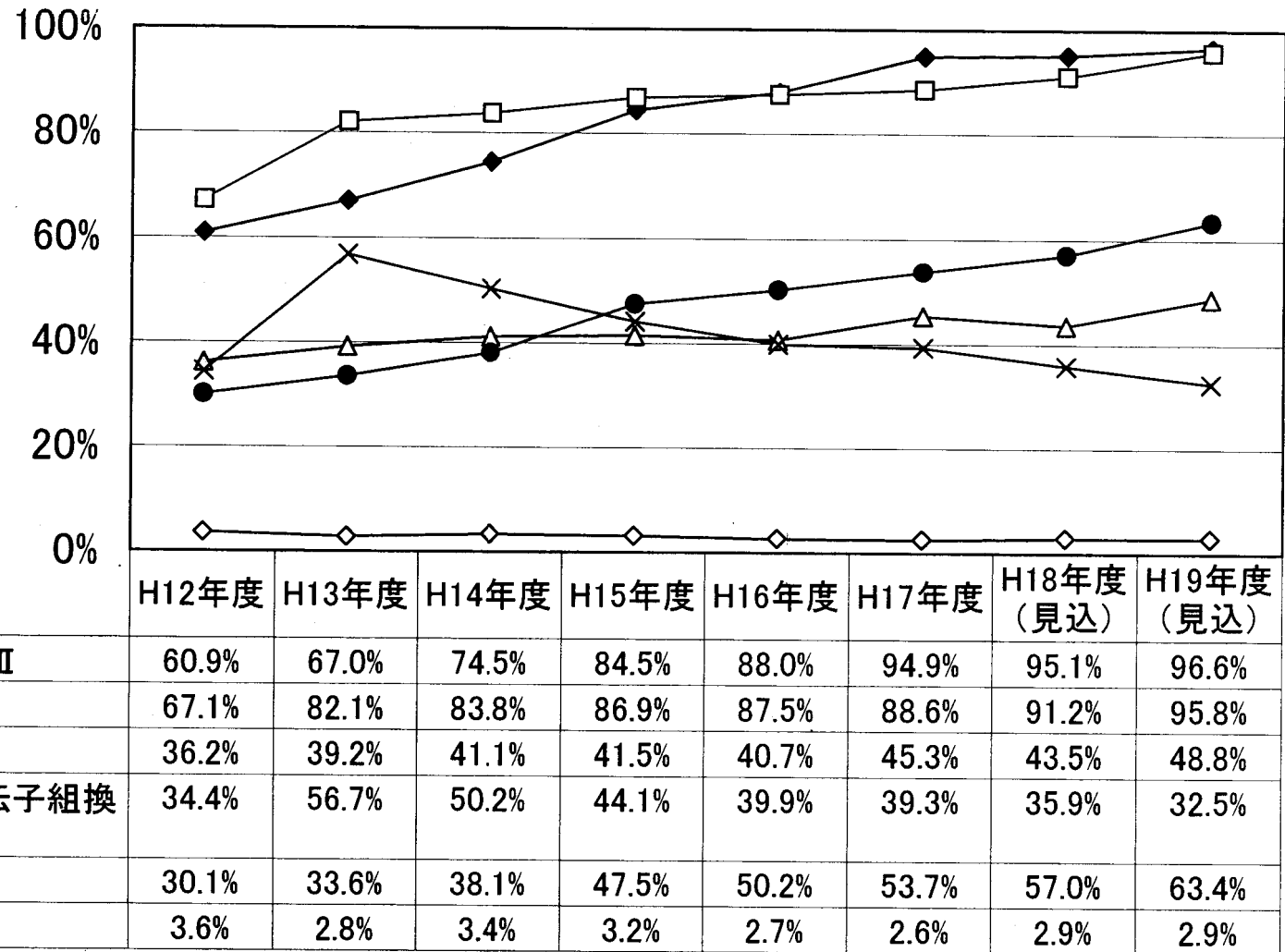
米国における原料血漿価格はThe Plasma Fractions Market in the United States 2005より  
(The Marketing Research Bureau Inc)

為替レートは IMF World Economic Outlook の1997年10月版及び2006年10月版の指標を使用。

# 血漿分画製剤の自給率の推移 (年次:供給量ベース)



## 主な血漿分画製剤の自給率の推移（供給量ベース）



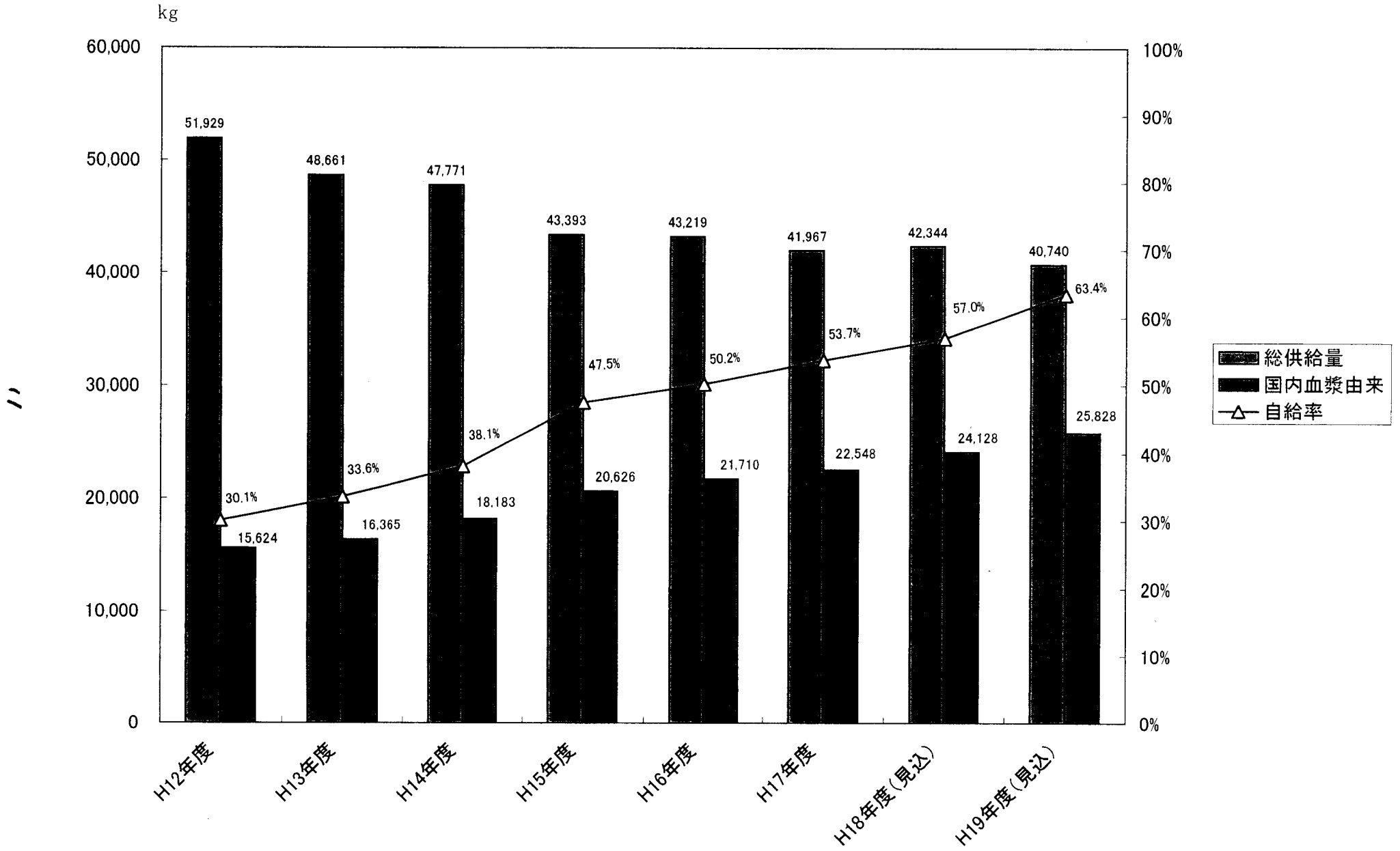
自給率100%のもの

乾燥人フィブリノゲン、血液凝固第VIII因子(血液由来に限る)、乾燥濃縮人血液凝固第IX因子(複合体含む)、トロンピン、乾燥濃縮人活性化プロテインC、人ハプトグロビン(見込)

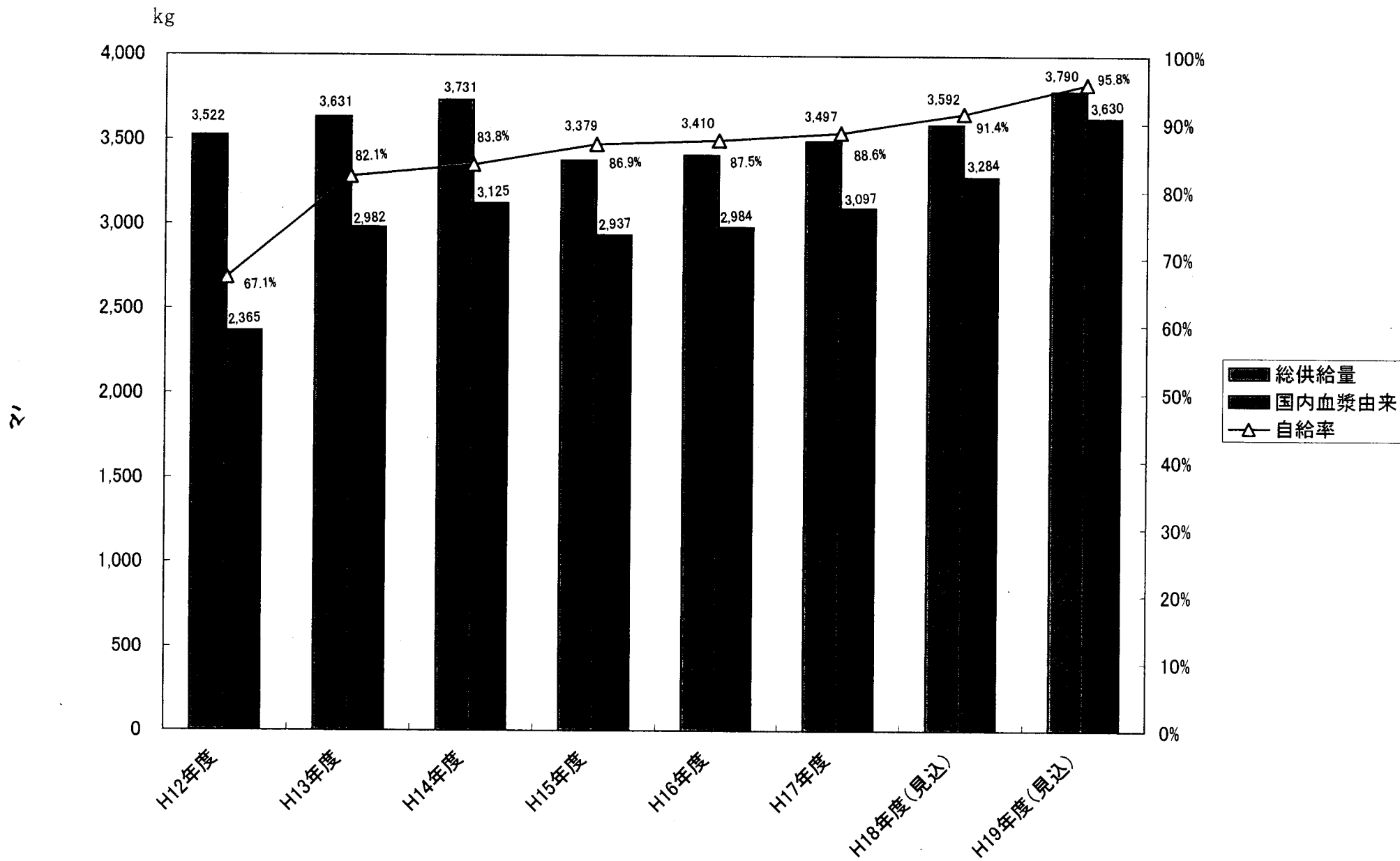
自給率0%のもの

インヒター製剤、乾燥濃縮血液凝固第XIII因子、乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン、抗破傷風人免疫グロブリン、乾燥濃縮人CI-インアクチベーター

# アルブミン製剤の供給量と自給率

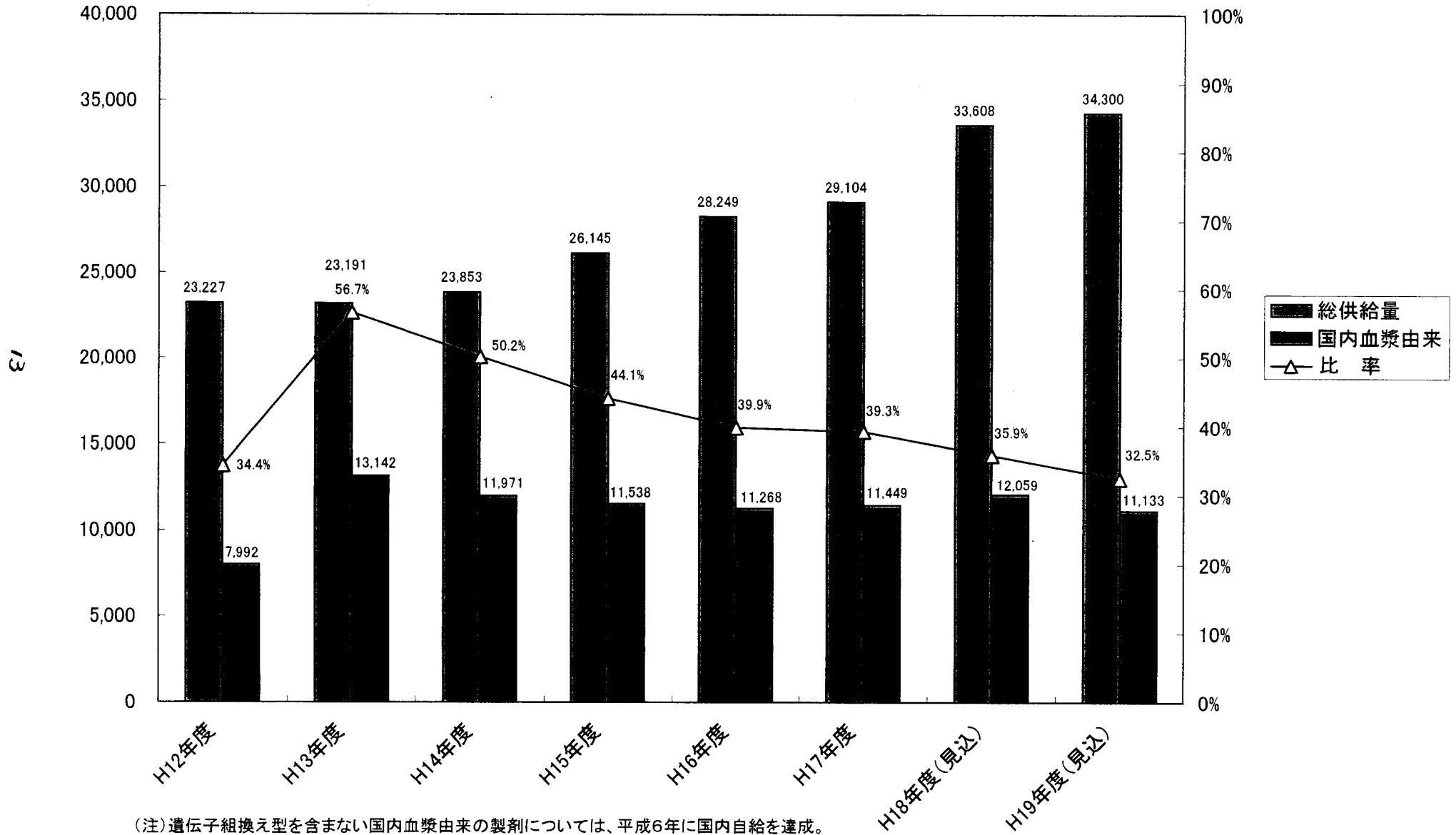


# 免疫グロブリン製剤の供給量と自給率



## 血液凝固第Ⅷ因子製剤の供給量(遺伝子組換え型含む) と国内血漿由来製剤の割合

万単位



(注) 遺伝子組換え型を含まない国内血漿由来の製剤については、平成6年に国内自給を達成。

血液製剤の製造(輸入)実績報告集計表(平成18年10月分)

	換算規格・単位	前月の末日における血液製剤の種類ごとの在庫量(本)	製造及び輸入した血液製剤の種類ごとの量 合計(本)		供給した血液製剤の種類ごとの量(本)	当月の末日における血液製剤の種類ごとの在庫量(本)
				うち国内原料由来		
アルブミン	25%50ml(瓶)	829,600	343,100	210,600	322,000	850,500
乾燥人フィブリノゲン	1g	1,200	0	0	200	1,000
組織接着剤	接着面積(cm2)	2,074,300	1,022,200	647,100	869,800	2,226,600
血液凝固第Ⅷ因子(遺伝子組換え型含む)	1000単位(瓶)	47,300	42,400	13,900	27,400	62,100
乾燥濃縮人血液凝固第Ⅸ因子(複合体含む)	1000単位(瓶)	9,900	0	0	3,100	6,800
インヒビター製剤	延べ人数(人)	2,500	1,100	0	900	2,700
乾燥濃縮血液凝固第ⅩⅢ因子	(瓶)	33,300	13,100	0	10,700	35,700
トロンピン(人由来)	10000単位(瓶)	23,400	3,700	3,700	4,900	22,200
人免疫グロブリン	2.5g瓶(瓶)	521,400	32,600	23,700	155,600	397,400
抗HBs人免疫グロブリン	1000単位(瓶)	7,500	1,300	600	1,500	7,200
乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン	1000倍	3,100	1,100	0	800	3,300
抗破傷風人免疫グロブリン	250単位(瓶)	52,700	0	0	6,400	46,400
乾燥濃縮人アンチトロンピンⅢ	500単位(瓶)	97,100	10,000	10,000	30,300	76,800
乾燥濃縮人活性化プロテインC	2500単位(瓶)	440	0	0	0	440
人ハプトグロブリン	2000単位(瓶)	16,000	0	0	3,400	12,500
乾燥濃縮人C1-インアクチベーター	500倍(瓶)	440	0	0	40	400

注1. 数値は、製品の規格別に報告された数量を集計し、代表的な規格・単位に換算したうえ、四捨五入により100又は10の整数倍で表示した。

また、月末の数量は在庫品の毀損、期限切れ廃棄等を調整後のものである。

注2. 液状タイプの組織接着剤については、接着・閉鎖部位の面積当たりの使用量を勘案して換算し、インヒビター製剤については、体重50kgの人への投与量を標準として人数で算出した。



血液製剤の製造(輸入)実績報告集計表(平成18年11月分)

	換算規格・単位	前月の末日における血液製剤の種類ごとの在庫量(本)	製造及び輸入した血液製剤の種類ごとの量 合計(本)		供給した血液製剤の種類ごとの量(本)	当月の末日における血液製剤の種類ごとの在庫量(本)
				うち国内原料由来		
アルブミン	25%50ml(瓶)	850,500	302,200	151,700	280,000	872,400
乾燥人フィブリノゲン	1g	1,000	0	0	200	800
組織接着剤	接着面積(cm <sup>2</sup> )	2,226,600	729,300	615,200	1,048,000	1,907,900
血液凝固第Ⅷ因子(遺伝子組換え型含む)	1000単位(瓶)	62,100	23,000	14,100	23,300	61,500
乾燥濃縮人血液凝固第Ⅸ因子(複合体含む)	1000単位(瓶)	6,800	1,600	1,600	2,300	6,100
インヒビター製剤	延べ人数(人)	2,700	400	0	1,200	1,900
乾燥濃縮血液凝固第ⅩⅢ因子	(瓶)	35,700	17,900	0	10,400	43,200
トロンピン(人由来)	10000単位(瓶)	22,200	0	0	3,200	19,000
人免疫グロブリン	2.5g瓶(瓶)	397,400	108,800	103,400	133,300	372,900
抗HBs人免疫グロブリン	1000単位(瓶)	7,200	0	0	1,600	5,500
乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン	1000倍	3,300	0	0	700	2,600
抗破傷風人免疫グロブリン	250単位(瓶)	46,400	0	0	4,400	42,000
乾燥濃縮人アンチトロンピンⅢ	500単位(瓶)	76,800	9,300	9,300	38,700	47,400
乾燥濃縮人活性化プロテインC	2500単位(瓶)	440	0	0	0	440
人ハプトグロビン	2000単位(瓶)	12,500	0	0	3,700	8,800
乾燥濃縮人C1-インアクチベーター	500倍(瓶)	400	0	0	40	370

注1. 数値は、製品の規格別に報告された数量を集計し、代表的な規格・単位に換算したうえ、四捨五入により100又は10の整数倍で表示した。

また、月末の数量は在庫品の毀損、期限切れ廃棄等を調整後のものである。

注2. 液状タイプの組織接着剤については、接着・閉鎖部位の面積当たりの使用量を勘案して換算し、インヒビター製剤については、体重50kgの人への投与量を標準として人数で算出した。

血液製剤の製造(輸入)実績報告集計表(平成18年12月分)

	換算規格・単位	前月の末日における血液製剤の種類ごとの在庫量(本)	製造及び輸入した血液製剤の種類ごとの量 合計(本)		供給した血液製剤の種類ごとの量(本)	当月の末日における血液製剤の種類ごとの在庫量(本)
				うち国内原料由来		
アルブミン	25%50ml(瓶)	872,400	289,700	157,800	353,900	808,100
乾燥人フィブリノゲン	1g	800	0	0	300	500
組織接着剤	接着面積(cm2)	1,907,900	995,800	534,700	1,154,200	1,749,000
血液凝固第Ⅳ因子(遺伝子組換え型含む)	1000単位(瓶)	61,500	25,000	8,800	35,500	50,900
乾燥濃縮人血液凝固第Ⅲ因子(複合体含む)	1000単位(瓶)	6,100	4,100	4,100	4,000	6,300
インヒビター製剤	延べ人数(人)	1,900	3,200	0	1,500	3,500
乾燥濃縮血液凝固第ⅤⅢ因子	(瓶)	43,200	0	0	17,200	26,100
トロンビン(人由来)	10000単位(瓶)	19,000	0	0	4,300	7,200
人免疫グロブリン	2.5g瓶(瓶)	372,900	76,500	76,500	153,400	295,900
抗HBs人免疫グロブリン	1000単位(瓶)	5,500	8,900	0	2,000	12,400
乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン	1000倍	2,600	4,300	0	1,000	6,000
抗破傷風人免疫グロブリン	250単位(瓶)	42,000	0	0	7,200	34,700
乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ	500単位(瓶)	47,400	66,700	66,700	41,700	72,400
乾燥濃縮人活性化プロテインC	2500単位(瓶)	440	0	0	0	440
人ハプトグロビン	2000単位(瓶)	8,800	0	0	5,400	3,400
乾燥濃縮人C1-インアクチベーター	500倍(瓶)	370	0	0	80	290

注1. 数値は、製品の規格別に報告された数量を集計し、代表的な規格・単位に換算したうえ、四捨五入により100又は10の整数倍で表示した。

また、月末の数量は在庫品の毀損、期限切れ廃棄等を調整後のものである。

注2. 液状タイプの組織接着剤については、接着・閉鎖部位の面積当たりの使用量を勘案して換算し、インヒビター製剤については、体重50kgの人への投与量を標準として人数で算出した。